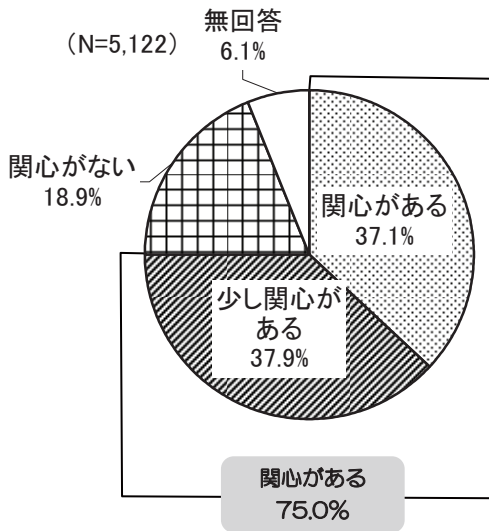


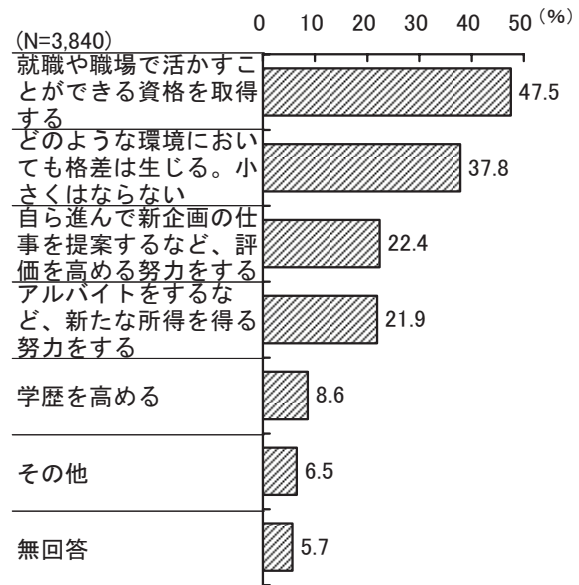
## 9 格差社会対策について

問 22 最近、所得や消費、資産など人々の生活における経済格差が広がってきているといわれていますが、あなたは格差社会の問題に関心がありますか。  
(○は1つ)



(問 22 で「1」、「2」と回答された方におたずねします)

問 22-1 特に所得格差が問題となっていますが、所得格差を少しでも小さくするために、本人ができる事としてどのようなことが考えられますか。  
(○はいくつでも)



※ “関心がある” 割合を算出する場合、回答数の合計から算出しているため、比率の合計とは一致しない場合がある。

**Point!**

“関心がある” 割合は公務員、アルバイト、パート、学生などが高い。

格差社会の問題については、「関心がある」が 37.1%、「少し関心がある」が 37.9%となっており、両者を合わせた“関心がある”割合は 75.0%となっている。

格差社会対策に「関心がある」または「少し関心がある」と回答した 3,840 人に所得格差を少しでも小さくするためにできることについて聞いたところ、「就職や職場で活かすことができる資格を取得する」(47.5%)が半数弱となっており、最も高くなっている。次いで「どのような環境においても格差は生じる。小さくはならない」が 37.8%となっている。

● **その他内訳** ●

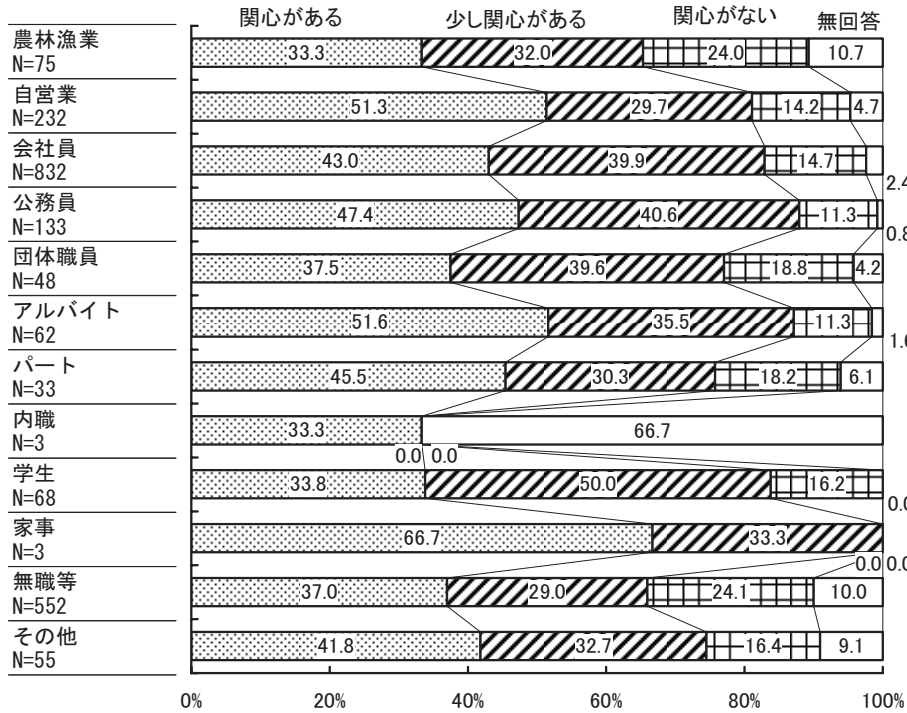
- 個人が、どうこうできる問題ではない。
- 格差の解消には、個人の努力だけでは解決しない。社会的制度を確立する。
- 個人も努力しなければならないが、行政も対策をうつべき。
- 社会全体の組織を変える。低所得を保護する。
- 格差を出来るだけ小さくする為、個人、行政とも研究、努力すべきだ。
- 働く意欲を持ち、まじめに働く。
- 自分の努力と行政政策次第。
- 企業側の問題が大きい。
- 企業も、よい人材には、それなりの賞与を与えたり、正社員にする。
- 正規の雇用を増やしてほしい。契約社員なんてやめるべきです。
- 政治に無関心な生活をやめる。選挙などで自己主張。投票を欠席しない。

…など

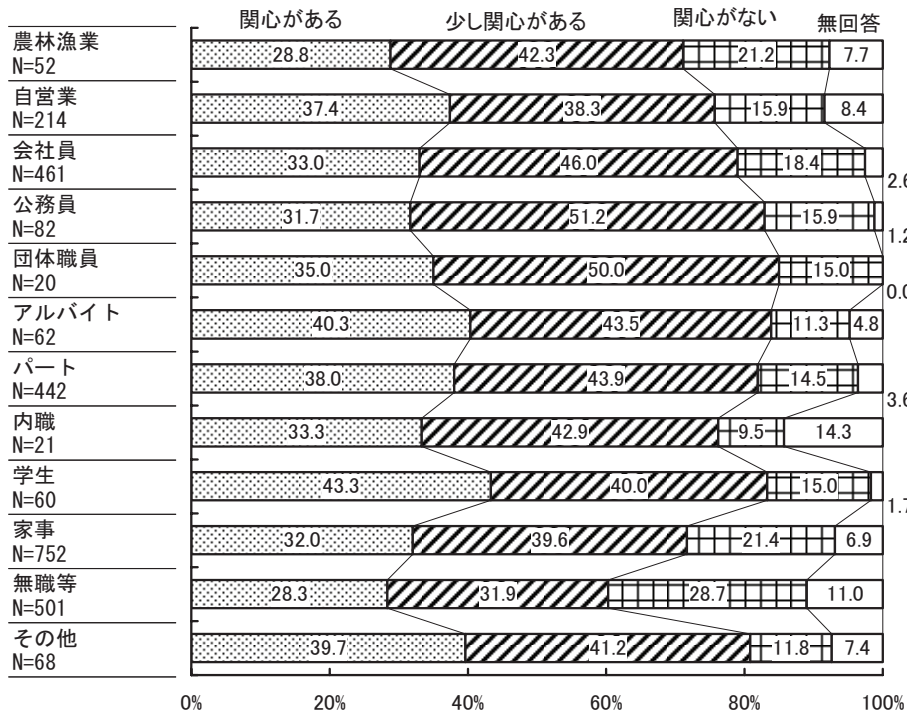
【性別・職業別】

問 22 格差社会の問題への関心

<男性>



<女性>



性別・職業別にみると、「関心がある」割合は、男性では自営業（81.0%）、会社員（82.9%）、公務員（88.0%）、アルバイト（87.1%）、学生（83.8%）で、女性では公務員（82.9%）、団体職員（85.0%）、アルバイト（83.9%）、パート（81.9%）、学生（83.3%）で割合が高くなっている。「関心がある」は女性より男性の方が高い傾向で、男性では自営業（51.3%）、公務員（47.4%）、アルバイト（51.6%）、パート（45.5%）で4～5割を占めている。女性では自営業（37.4%）、アルバイト（40.3%）、パート（38.0%）、学生（43.3%）で3～4割を占めている。